

## 平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	海田町立海田東小学校		
学校長氏名	大橋 綾子	栄養教諭氏名	須山 明香
職員数	42名	児童・生徒数	510名

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

昨年度から給食指導をする中で、食事の準備、食べ方、片付けにおけるマナー指導を充実させていく必要があるという課題が見えてきた。給食指導で注意をすると、ほとんどの児童がその場で改善しようとする姿勢が見られるが、今までの習慣が身につけてしまっているため、なかなかすぐに正しい食事マナーが定着しないのが現状である。給食指導において、継続的な指導を行うことはもちろんであるが、家庭とも連携し、正しい食事のマナーを身につけていく必要がある。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

1日に複数のクラスを指導すると、どの児童に食べ方の課題があるのかは見えてくるが、継続した個別指導が難しい。今年度は、1日1クラスの指導を1週間程度続けて行うことで、正しいマナーで食事を行うことができる児童をクラスの80%以上にするという目標を立て、給食指導を行うこととした。

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

## 【取組1】（テーマ）給食時間における準備、食べ方、片付けのマナー指導の実施



1日1クラスという形で、低学年・中学年を中心に給食指導を行っている。準備においては、給食当番以外もマスクを着用し、机の上や周りを片付けて給食を食べる環境を整えることや、おかずを等分し、食缶の中身はつぎきるようにすること、食べ方においては、食器を持って食べることやはしを正しく持つて使うこと、三角食べをして苦手なものも少しは食べるということ、そして片付けについては、食器の上をきれいにすること、ゴミを小さくまとめること、食器の高さをそろえて片付けること等、指導を行った。

## 【取組2】（テーマ）学級活動における「はしのマナー」の指導の実施

第3学年の児童を対象に「正しいはしの使い方を知り、おはし名人をめざそう」というめあてで指導を行った。はしの正しい使い方、持ち方だけでなく、「はしの使い方のマナー」という観点を加えることで、はしのマナーは食べ物を大切に作る心につながることや、食卓を一緒に囲む人々が気持ちよく食事をするために考えられた日本の食文化「思いやりの心」に通じるものがあることも指導した。授業後のワークシートにおいて、児童からは「はしを正しく使い、お皿の上をきれいにすることで作った人への感謝の気持ちも伝わるといことがわかりました。」「持ち方は正しくで



きていたけれど、わたしばしなどの嫌いばしをしてしまっていたので、これからはマナーにも気をつけていきたいです。」という振り返りが見られた。また、保護者からは「家でも早速正しいはしの持ち方を意識して食事をしていました。」「子どもと一緒に正しいはしの持ち方や使い方のマナーについて考え直すきっかけになりました。」などの声を聞くことができた。

#### 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について



今年度のひろしま給食の県内統一メニューである「熱く燃えろ！！Cスープ」は、カープをイメージしたスープであったため、より「C」を感じてもらうために、海田町ではレシピにアルファベットの形をしたマカロニを加えるというアレンジをした。本校では、スープに「C」のマカロニが入っていた児童には栄養教諭が折り紙でつくった「ミニチュアカープ帽子」を各クラス2人限定でプレゼントするという取組を行った。

その結果、児童らは「C」を探しながら楽しそうに食べ、全てのクラスが完食することができていた。

また、今年度も「東小まつり」で保護者と連携し、今年度のひろしま給食のうち4品の調理を行い、バザー会場で、保護者や地域の方々に試食を提供した。家庭でも作って食べることができるようレシピを配布したり、作り方をアドバイスしたりしながら働きかけた。



#### 5 取組に対する成果と課題

##### 【成果】

- ・1日1クラスの指導を継続して行うことで、食器を持たずに食べていた児童が注意しなくても食器を持って食べることができるようになった、びっくり食べをして苦手なものを残していた児童が三角食べの声かけをすることで苦手なものにも挑戦しながら給食時間内に食べることができるようになった等の行動変容が見られた。
- ・授業の内容を保護者にも伝えることで、家庭での食育への意識付けをすることができた。

##### 【課題】

- ・低学年においては継続した指導をすることで行動変容も見えやすいが、中学年・高学年においては、今までの食習慣が身につけてしまっているため、学校での指導だけではなかなか行動変容が見られない。

#### 6 今後の取組に向けた改善方策について

校内においては学級担任等と連携しながら主に給食時間を活用し、継続した指導を行っていく。さらに、学校で給食時間の他にもあらゆる教育活動の場面で行っている食に関する指導の内容を家庭にも伝え、保護者と連携し、継続した指導を行っていくことで児童の食生活の変容につなげていきたい。